

## 令和3年度

### 採材現地検討会及び大槌・気仙川流域の林業労働災害防止講話

10月19日（火）、気仙郡住田町の小股国有林33林班において、岩手県、住田町、関係林業団体、当署から51名が参加し採材現地検討会を開催しました。

今回も受付での検温、消毒やマスク着用等の新型コロナウイルス感染症対策をとりながらの検討会となりました。

署長挨拶の後、現地概要説明、採材検討の説明があり、その後3班に分かれて各班ごとに事前に準備した「クリ」「ブナ」「ミズナラ」「ホオノキ」そしてシークレット材として「ヤマナラシ」を実際に木材チョークで採材表示し、採材理由も含め発表しました。

これらの検討結果を踏まえ、岩手県森林組合連合会からは、樹種によっては長材に向かないものも有るが、概ね採材の仕方には問題無い旨の講評がありました。

また、東北森林管理局青森事務所から、生産コストの削減と販売単価を上げることを意識した有利採材を行うよう講評がありました。

採材現地検討会終了後13時50分から大船渡市民交流館カメラホールにおいて、採材現地検討会の参加者のうち49名の参加者で、林業労働災害防止講話を実施しました。

渡辺大船渡労働基準監督署長の挨拶の後、鈴木地方産業安全専門官による「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の改正についてや、その他林業を中心とした講話が行われました。参加者は、自分に関わりのある具体例などを熱心に聞いていました。



開会式の様子



採材検討の様子



実際にチェーンソーでの採材の様子



森林組合連合会による講評



労働災害防止講話開会の様子



大船渡労働基準監督署長の挨拶



大船渡労働基準監督鈴木地方産業安全専門官による講話の様子

